

蒔絵の真価を探るⅢ

— 著名人と漆 —

講師 = ナカサトトシカツ 中里壽克 (東京文化財研究所名誉研究員)

時間 = 14:00 ~ 15:30

受講定員 = 20人

受講料 = 8,000円

テキスト：各回、内容に関連した資料（珍しい写真や意匠など）を配付します。

※配付資料は全回分ご持参ください。

スケジュール

- ① 6月26日（金）聖徳太子と漆—塚棺
- ② 7月 3日（金）空海と漆—袈裟箱・冊子箱
- ③ 7月10日（金）藤原氏と漆—春日大社古神宝類
- ④ 7月17日（金）平家と漆—厳島神社古神宝類
- ⑤ 7月24日（金）源頼朝と漆—鶴岡八幡・三嶋大社
- ⑥ 7月31日（金）光琳と漆—八橋蒔絵硯箱

講座内容

漆芸の世界にも名品と称される遺品は数多くあります。これらは歴史、あるいは、製作者や技法などの観点から論じられることが多い。しかし、ここで、その視点を逆転し、所有者、あるいは、深く工芸に関係した人々の視点から作品を見たらどんなことになるでしょうか。

漆によって時代が動いたかもしれません。あるいは、人物によって漆が輝いたかもしれません。

講師プロフィール

東京藝術大学美術学部卒業、同大学院修士課程修了。東京国立文化財研究所（現東京文化財研究所）修復技術部第一修復技術研究室長を務めた後、平成18年度まで鶴見大学文学部教授・同大学院文学研究科文化財学専攻博士課程指導教授。これまでに、奥州平泉中尊寺金色堂の解体修理、法隆寺献納宝物・正倉院宝物など漆芸文化財の調査・分析・修復を数多く手がける。